

総務委員会視察報告書

【視 察 日】 令和5年10月30日（月）～31日（水）

【視察委員】 神戸 好伸委員長、薮崎 正幸副委員長、川島 美希子委員、池田 博委員
石井 通春委員、平井 登委員、油井 和行委員、植田 裕明委員

【視 察 先】 （1）大阪府貝塚市 （2）滋賀県甲賀市

【調査事項】 令和5年10月30日（月） 大阪府貝塚市 新庁舎の建設について

①市の概要 人口 約82,960人、面積 43.93km²

「二色の浜」や「和泉葛城山」など豊かな自然に囲まれている。国宝の観音堂を有する孝恩寺、願泉寺を中心に形成された寺内町のまちなみなどの歴史もある文化のまち

②取り組みの経緯・内容

- ・1965年（昭和40年）に建設された旧庁舎はISG耐震基準（防災基準0.9、一般基準0.6）以下であり、震度6で倒壊の恐れありの建築であった。
- ・本庁舎、教育庁舎、福祉センター、保健福祉合同庁舎等の施設が分散していたが、本庁舎を中心にシビックコアを形成、警察署、自衛隊、子ども家庭センター、コメダ珈琲など周辺整備を実施していく。
- ・設計、施工の建設費等に加え維持管理費や今後25年間の運営業務を含めた、84億4千万円の総事業費を、一括発注するPFI手法を採用し建設された。
- ・民間事業者が持つ資金力や経営能力、技術的能力などを活用することで、自治体は財政負担を軽減できると共に、庁舎の維持管理や運営等を民間に任せられ、スリム化が図れるメリットがある。
- ・2018年に新庁舎整備事業検討委員会の立ち上げから、市民ワークショップや障害者団体とのヒアリングも経て『人がつどい、未来輝く安全・安心な庁舎』を基本理念とした新庁舎整備事業計画が策定されて行く。2019年事業者選定委員会から事業者公募から始まり、2022年3月新庁舎完成から5月共用開始、6月旧庁舎の解体撤去、駐車場や外構等の整備を経て2023年3月に完了としている。検討委員会から、5年という短期間での事業としている。

③今後の課題

- ・要求水準を基本とする本事業のPFI手法では、契約後及び共用開始後の追加工事や改修等の要望について、事業者から「現状で要求水準を満たしている」との回答が多く、仕様変更や追加工事等については別途協議や費用が掛かって来るという。

④本市に反映できると思われる点

- ・新型コロナによる生活様式の変化やDXにより、新庁舎に求められる機能や役割は大きく変容しつつある。新庁舎整備への擬態的な取り組みが始まろうとしている本市において、従来型公共工事の発注・契約方式ではなく、PFI方式を採用が望まれる。
- ・本方式では発注者である藤枝市が要求水準を規定するだけで、財政負担の軽減、民間の創意工夫によるコスト削減や新技術の導入など、多くの面でメリットは高いと思われる。
- ・本視察では、「市民が集いやすく、誰もが利用し易い安全・安心な庁舎」をコンセプトにした庁舎や駐車場や外構など各所に反映されていたことは大きな収穫に思う。
- ・本市においても市民ワークショップや各種団体とのヒアリング等も実施し、要求水準所に反映し整備されたい。



【調査事項】 令和5年10月31日（火）滋賀県甲賀市 日本遺産を活用した観光施策について

①市の概要

人口 88,865 人、481.62 km² 滋賀県の東南部に位置し、川沿いに平地が広がり、琵琶湖の水源涵養や水質保全に重要な役割を果たしている。甲賀忍者のモデルとなった「甲賀衆」ゆかりの日本遺産、紫香楽の宮の史跡や水口岡山城などの国指定史跡を含む重要な史跡が点在。「日本遺産 信楽焼」や「甲賀の置き薬」などの歴史背景のある工業では、製造品出荷額では長年県内トップを誇っている。

②取り組みの経緯・内容

- ・日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、文化や伝統を語るストーリーを発信し、地域の活性化を図るもので、文化庁がパッケージ化し人材育成・伝承・感興整備などを推し進めているもので、3年間の補助が受けられる。

- ・2017年4月に日本六古窯^{ろっこよう}として関西地域6ヶ所の焼き物産地の総称として、越前焼、瀬戸焼、常滑焼、設楽焼、丹波焼、備前焼を有形民俗文化財として世界に発信している

- ・地域横断での研修会の開催：六市町共同での研修会を開催し、地域横断で窯元および支援者が学び合える場を設けることで、六古窯全体で新たな商流構築や文化観光など機運を醸成するとともに、共通の問題意識・意欲を持つ窯元や支援者同志が地域を越えて交流する機会を設ける事で、将来的な共創活動の基盤を構築する目的を持つ。

- ・忍者の発祥地としては、伊賀（三重県伊賀市）とともに甲賀（滋賀県甲賀市）の持つストーリーが日本遺産に認定されている。2019年に3月に『忍者を核とした観光拠点整備基本計画』を策定されており、「リアルな忍者を求めて甲賀を旅する起点の創出」として、

ア リアルな忍者を求めて甲賀市にやってくる来訪者の知的欲求を満たし、忍者体験等のワクワクする楽しみを見つけ、更なるリアルな甲賀流忍者の探求の旅に出たくなる観光拠点の創出。

イ 甲賀流忍者に対する国内外からの来訪者の関心の高さに触れる事により、地域住民が忍者に対する認識を新たにし、忍者を誇りに思う様なる拠点を創出する。

ウ コンセプトの実現のために期別による整備を進め、よりリアルな甲賀流忍者の姿を伝える拠点を創出すると共に、市内の忍者関連施設とのネットワーク形成を推進し、甲賀市の忍者観光の魅力向上に係る相乗効果を高める。

エ 甲賀市全域を対象に、観光資源とのネットワークを積極的に形成し、観光客の甲賀市での滞在時間の増加を図る事により、地域経済の底上げに寄与する拠点を整備する。

これらの方針を網羅し2020年11月に『甲賀流リアル忍者館』が出来た。



③今後の課題

- ・「信楽焼」「甲賀流忍者」とともに、日本遺産の中でも知名度や人気、興味関心の高さにおいて、優位性が高いと思う反面、観光拠点としての基盤整備に多くの課題があると思われる。極、田舎である事から交通手段や宿泊施設の整備は、早急にされたい。

- ・リアル忍者については、その史実に基づく見学施設や体験施設の整備不良、情報発信不足、そして行政と地元住民や事業者との連携強化も今後の課題であると思われる。

④本市に反映できると思われる点

- ・日本初「旅ブーム」を起こした弥次さん喜多さん駿州の旅、日本遺産パンフレットがあり、知らない私たちが悪いのか？「SUNSHU」とか、「東海道駿州の旅」の冊子があります。日本遺産認定後、静岡市とのコラボで改めて見直す、「地元の日本遺産」とか、「歩いて駿州日本遺産」をアピールされたい。